

＜改良前 酸素検知管 NO.31E の正しい取り付け方＞

Gマークの矢印と青い矢印 →を気体採取器に向けて取り付けして下さい。



酸素は三塩化チタンと反応して酸化チタンを生成し、白色を呈する。
この時、塩化水素も同時に生成されますが、除去剤である硫酸銅により完全に除去されます。
$$\text{O}_2 + 4\text{TiCl}_3(\text{黒色}) + 6\text{H}_2\text{O} \rightarrow 4\text{TiO}_2(\text{白色}) + 12\text{HCl}$$

＜検知管を間違った向きで取り付け使用してしまった場合の対応＞

検知管の向きを間違えて使用した場合は、検知管は外さない、
気体採取器のハンドルは戻さない



向きを間違えて使用された場合、発生した塩化水素が気体採取器に入り
白煙(塩化水素)として、外に漏れる恐れがあり危険です。また、測定も出来ません。

以下の手順で対処して下さい。

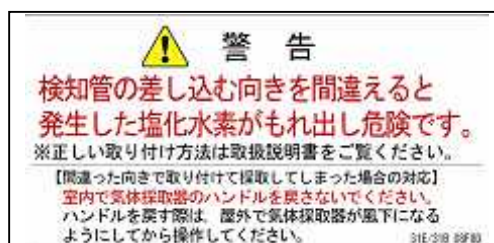
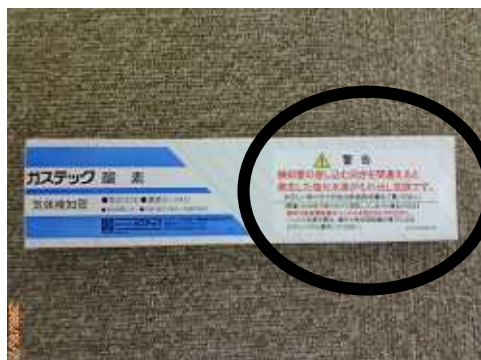
- ①酸素検知管を差し込んだままの状態で気体採取器ごと屋外へ持って行って下さい。
- ②気体採取器が風下になるようにして、酸素検知管を外して下さい。
- ③周囲に人がいないことを確認してハンドルを戻して下さい。

<塩化水素を吸い込んでしまった場合の対処方法>

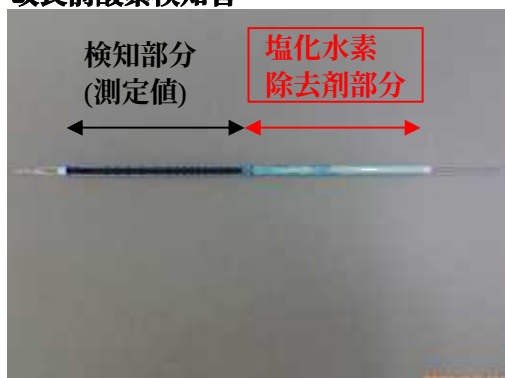
塩化水素を吸い込むと目、鼻の痛み・せき込む等の恐れがあります。塩化水素を吸い込んだ場合は、直ちにうがいをし、さらに目、鼻を水でよく洗い流した後、すみやかに医師の診断を受けて下さい。

<改良前酸素検知管と現在販売している酸素検知管>

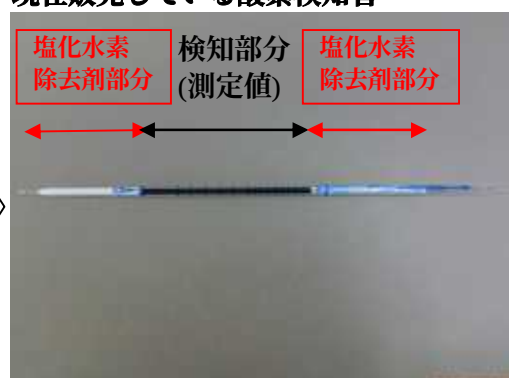
改良前の酸素検知管の箱には、下記のような警告シールを貼付しております。



改良前酸素検知管



現在販売している酸素検知管



現在販売している酸素検知管は、間違えて逆さまに気体採取器に取り付けて、測定した場合も、塩化水素は除去されます。ただし、測定は出来ません。